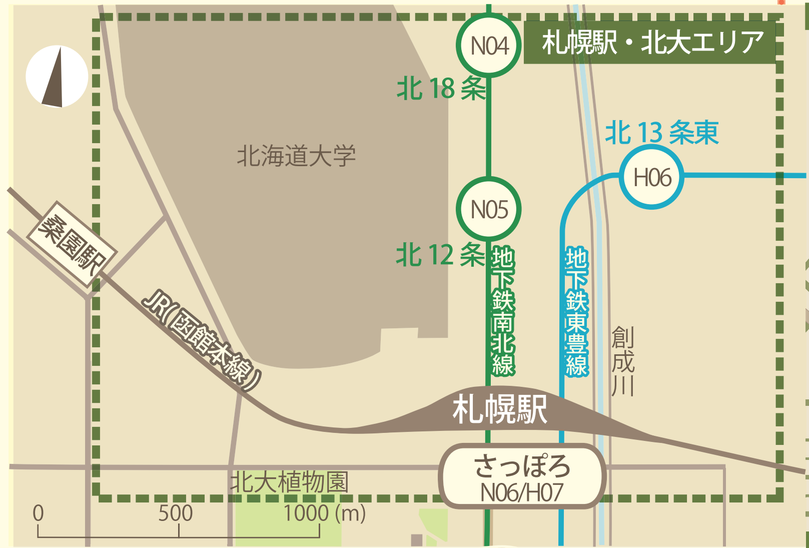
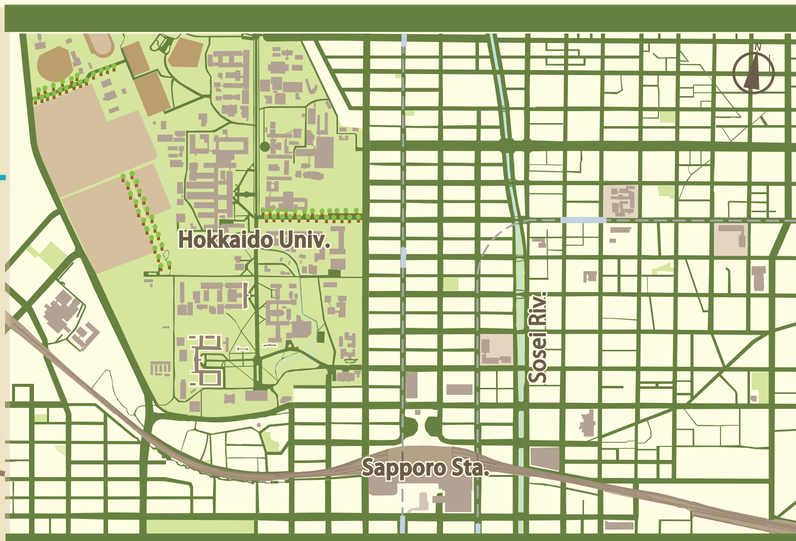
札幌市立大学の学生が案内する
Tさん

さっぽろみどりマップ
北大キャンパス散歩
札幌駅・北海道大学エリア





おすすめ交通機関

乗り心地のよいゴムタイヤ式の地下鉄です。

ポロクル
5月1日～10月31日

共同利用のレンタサイクル。街中にある46ヵ所のポートからポートへ自由に貸出返却可能。「1日パス」なら24時間後まで利用できてお得！

料金（1日パス）：1,080円
［携帯電話・身分証明書が必要］
※詳細は、TEL 011-242-4696
ホームページ https://porocle.jp/

JR北海道 函館本線（千歳線・札沼線）

北海道の中心駅である札幌駅や、西隣の桑園駅から、エリア内の散歩も！

※詳細はホームページ
http://www.jrhokkaido.co.jp/network/index_3.html
料金（初乗り）：
大人170円、子供80円

地下鉄 南北線・東豊線

気軽に乗れる地下鉄が便利。

※詳細はホームページ
https://www.city.sapporo.jp/st/subway/index.html
料金（1区間）：
大人200円、子供100円
共通1DAYカード（地下鉄・JR北海道バス・じょうてつバス・北海道中央バス・市電）：
大人1,000円、子ども500円
※バスの対キロ区間、イベント開催時のバス臨時便は別料金となります。

［制作］札幌市立大学 デザイン学部 吉田研究室、（株）プラッツ
［監修］札幌市環境局みどりの推進部
さっぽろ市
02-G03-14-1429
26-2-898

■平成26年9月の情報です。情報が変わる場合がありますので、ご了承ください。

このエリアで見たい！花・紅葉カレンダー

✿ 花　🍂 紅葉・黄葉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
チューリップ（そらのガーデン）		✿					
キバナノアマナ（北大 エルムの森）		✿					
オオバナノエンレイソウ（北大）		✿					
アマ（北8条通）			✿	✿	✿		
クロユリ（北大 花木園）			✿				
スイレン（北大 大野池）				✿			
クロフネツツジ（北大 総合博物館）		✿					🍂
オオバボダイジュ（北大 古河講堂南西側）				✿			
サトウカエデ（北大 事務局前）							🍂
クロビイタヤ（北大 古河講堂北西側）							🍂
ハルニレ（北大 エルムの森）							🍂
ルブルムカエデ（北大 事務局前）							🍂
イチョウ（北大北13条通）							🍂

※その年の気象によっては、大きくズレが生じることもあります。
※紅葉は、「昼夜の十分な気温差」「好ましい日当たり」「澄んだ空気と適度な湿度」といった条件が整うと、より美しくなります！
出典：北海道の緑化樹／（一社）北海道造園緑化建設業協会、（公財）札幌市公園緑化協会ホームページ／知りたい北海道の木100／佐藤孝夫 著／亜璃西社 発行

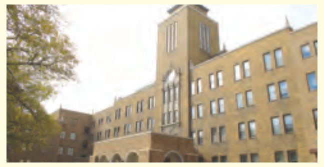
古き良き建物とみどりを楽しもう

みどり豊かな北大キャンパスの中には、歴史あるステキな建物がいっぱいです！
※場所はマップでご確認ください

A 古河講堂 ※外観観覧のみ

アメリカン・ヴィクトリアン様式を中心とした、白い外壁と周囲の緑のコントラストが美しい建物です。1909(明治42)年築。

B 農学部 ※外観観覧のみ



札幌農学校時代から続く長い伝統を引き継ぐ北大の看板学部。風格ある建物は1935(昭和10)年築です。

C 旧昆虫学及養蚕学教室※外観観覧のみ

1901(明治34)年建設後、一度も移築されておらず、エメラルド色の屋根の平屋建物が目を引きます。

D 総合博物館(旧理学部本館)

1929(昭和4)年築の、札幌で最古の本格的な鉄筋コンクリート建築。建物内にはアインシュタインドームと呼ばれる素晴らしい曲線美のドーム空間が。400万点にも及ぶ貴重な資料や学術標本、北大の歴史資料が、無料で展示されています。

E 札幌農学校 第二農場

クラーク博士の構想により設置された北海道畜産業発祥の象徴。風格ある模範的畜舎（モデルバーン）は、積雪寒冷地に適した牧舎が必要との考えから、1877(明治10)年に現在の附属図書館付近に建てられました。1909（明治42）年から3年をかけて現在の場所に移築され、第二農場が整備されました。

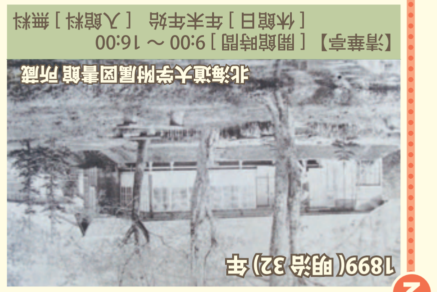
エリアのおすすめスポット

START ① そらのガーデン

北海道で初の本格的な屋上庭園です。富良野市の「風のガーデン」や上川町の「大雪 森のガーデン」を手掛けた上野砂由紀さん監修による、国内でも珍しいグラス（草本）ガーデン。北海道に適した宿根草を中心に、4月下旬～5月にはスイセン・チューリップ、夏は三尺バーベナやエキナセア、秋はダリアや黄金色に輝くグラスが彩りを添えるなど、さまざまな草花がちりばめられています。

札幌市中央区北5条西2丁目
札幌エスタ11階
[開 園 日] 4月下旬～11月上旬(予定)
4～5月・9～11月／10:00～18:00
6～8月／10:00～20:00
[入園料] 無料

② 偕楽園と清華亭



北海道大学附属図書館 所蔵

【清華亭】 [開館時間] 9:00 ～ 16:00
[休館日] 年末年始　[入館料] 無料

偕楽園は1871（明治4）年に作られた札幌で最初の公園です。昔の歴史を記した「北海道誌」によると、園内にはサクシュコトニ川が流れる河畔公園でした。現在の公園イメージとはかなり異なり、北海道に試験導入する内外の野菜や花き・果樹・樹木・繊維植物などを幅広く集めた苗畑の他に、サケマスふ化場・工業試験所・博物館がある実験場でした。

また、1880（明治13）年には開拓使の貴賓接待所として清華亭が落成し、翌年に明治天皇が休憩所として利用されました。明治の気品を感じさせる和洋両様式の由緒ある建築で、開拓使長官の黒田清隆が樹木や花・池の美しさを称えて「水木清華亭（みずきせいかてい）」と名付けたことに由来します。

室内は洋風ながら所々に和風のテイストを取り込み、古さを感じさせない造りとなっています。

③ 北海道大学

オオバナノエンレイソウが校章

1876（明治9）年に北海道大学の前身である札幌農学校が設立され、`Boys,be ambitious'で有名なW.S.クラークが初代教頭でした。当初は開拓使官吏養成という目的で開校しましたが、その歴史は北海道の発展と密接に関わっており、新渡戸稲造や宮部金吾など、後世に名を残した人物を輩出しています。

札幌農学校の最初のキャンパスは、現在の時計台の辺りの北1～2条・西1～2丁目にまたがる場所にありました。時計台はかつて演武場と呼ばれた札幌農学校の施設でした。今の位置にキャンパスが移転したのは1903（明治36）年。現在は約178ヘクタールの広大な敷地を持ち、札幌の都心に居ながら、北海道らしい自然を感じることができます。

正門近くにある、カフェとショップを兼ねたオシャレなインフォメーションセンター「エルムの森」では、構内マップが手に入るなど、気軽に立ち寄ることができるのでおすすめです。入口の花壇では、オオバナノエンレイソウなどの野草を、間近に見ることができます。

※北大構内は全面禁煙です。花や樹木・芝生は北大の財産ですので、採ったり、傷つけたりしないようにしましょう。また、芝生が痛みやすいので、大人数での利用や長時間の滞在はなるべく控えましょう。

1 エルムの森

札幌軟石造りの「旧昆虫標本庫」近くに、キャンパスで最も背が高く樹齢数百年にもなるハルニレ（英名：エルム）が見られます。この巨木と芝生が広がる広場の一部では、春にキバナノアマナの群落が一斉に開花します。

2 クロビイタヤ

1884（明治17)年に宮部金吾が日高地方で見つけたことからミヤベイタヤとも呼ばれる、絶滅危惧種です。

クロビイタヤはエゾイタヤなどに比べて、幹が黒っぽいのでクロビ（黒皮）と呼ばれたそうです。やや湿った場所に適していて、周辺では道庁赤れんが庁舎前庭や北大植物園にも植えられています。葉の形がサトウカエデに似ており、秋は黄葉が美しいです。

3 ポプラ並木

味わいのある並木。まるで緑の壁のようです。

1912（明治45）年、林学科学生の実習用として植えられたのが始まりと言われます。成長が早い木で寿命が短く、風で倒れやすいため、ここの枝を挿し木して育てた「平成ポプラ並木」が、この並木の北側につくられました。

2004（平成16）年の台風18号で、51本のうち19本のポプラが倒木しました。その面影を残すため、倒木した材料からチェンバロやベンチなどが作られ、総合博物館内に設置されました。

4 花木園

もともと花木園だった所が1997（平成9）年に一般開放されました。札幌農学校2期生である新渡戸稲造の胸像があり、「願わくは、われ太平洋の橋とならん」と英文で記されています。

ヤマボウシ・アカナラ・ノバラなどのほか、クロユリやオオウバユリといった野草も見られ、隠れた紅葉の名所ともなっています。歩道は歩きやすい木チップ舗装で、遊歩道の終点からは北大第一農場を眺めることができます。

クロユリ

GOAL 5 イチョウ並木

美しい黄色いトンネルが楽しめます。

2004（平成16）年の台風18号にも負けなかった札幌の代表的な並木です。かつてはエゾヤマザクラとイタヤカエデが植えられましたが、1939(昭和14)年に現在のイチョウ(外側はヤマモミジ)に。全長約380m・約70本が道路を挟んで植えられました。大学ホームページで「イチョウ並木黄葉状況」がアップされます。